

瓦谷山だより



vol.8

発行日 2008年7月吉日
 発行人 (宗) 真光寺 岡本和幸
 印刷 現代社
 編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
 (宗) 真光寺
 TEL 0438-75-7414



ご挨拶

まもなくお盆の季節を迎えます。真光寺では新しい伽藍が完成し、引越しを済ませ、外回りの工事もあるかた終わり、ようやく落ち着きを取り戻しました。真光寺の新しい伽藍は次の七つです。

一、山門 お寺の玄関です。

二、仏殿 仏様のお住まいです。法事を行うことができます。

三、観音堂 真光寺縁の会の皆さんの位牌堂です。

四、庫院(食堂) 会議や食事をする場所です。葬儀会場にもなります。葬儀後の後席や法事の後のお食事の会場にもなります。

この建物には事務所と厨房があります。

五、方丈(書院) 畳のお部屋です。小規模なお通夜や葬儀を行います。法事の際には控え室になります。大規模なお葬儀を行う場合は、親族の控え室や宿泊場所にもなります。寝具は二十組程度用意がありますが、貸布団を利用することもできます。

六、庫裡 住職の住まいです。

七、慈嶽堂(未完成) 本堂、研修道場として使用します。

慈嶽堂は来春の完成を目指し、今秋より工事に入る予定でおります。完成まで今しばらくご不便をおかけしますが、よろしくお願い致します。

さて旧本堂正面に飾ってあった山号額「瓦谷山」を新しい山門に掛けました。この額は真光寺の本寺である木更津市真里谷、真如寺二十五世寛巖春登禅師の筆によるものです。真如寺は末寺四十八ヶ寺、孫寺二百数十ヶ寺、堂塔三十余棟、修行僧も常に八十人、上総の高野山

と称される程栄えたといわれる曹洞宗の古刹でしたが、戊辰戦争の時に官軍に放火され、すべての堂塔が灰塵に帰しています。二十五世の住職就任が宝永五年(千七百八年)、示寂が延享四年(千七百四十八年)とありますから、二百六十年から三百年前の間に書かれた書であることがわかります。旧本堂の建設年代は約百七十年前かと思いましたが、もう百年位さかのぼる可能性があります。また真光寺のご本尊様も江戸時代後期の作といわれていますので、同時代のものかもしれません。額の書を書いた寛巖春登禅師は真如寺の諸堂の再建を行った人といわれていますので、新しい真光寺の山門額としても最適かもしれません。

仏殿には新しく薬師如来を拝招致しました。心の病む時代、自然が地球が病んでいる時代にできたお堂なので、それを直すお医者様である薬師如来を作成していただき、真光寺の中心に安置しました。成安造形大学教授の伊藤憲太郎先生の作品です。高麗仏のような面差しで、鋭さの中に慈愛あふれる目をお持ちです。この伽藍を使った様々な仏事や里山再生活動、かずさ自然学校の活動などを通じて、仏教の布教ひいては人々の心の安寧に貢献し、薬師の大慈、大悲を胸に、その願行に順じていきたいと考えております。

現在観音堂には旧ご本尊様(お釈迦様)をおまつりしていますが、新しく観音様をお招きし、旧ご本尊様は、慈嶽堂(本堂)におまつりする予定です。

お盆の諸行事が続きます。皆様のご参詣をお待ちしております。

住職 岡本和幸

合掌

開創四百五十年記念事業

◆伽藍建立工事の報告◆

開創四百五十年記念事業は、平成十五年九月に作成された『真光寺整備構想』基本計画報告書から始まりました。基本計画書の作成時間も含めると六年間という長き年月を経て、この六月に伽藍の完成と共にようやく一段落したところです。

（完成ではありません）

途中、皆様にご心配をおかけ致しましたが、素晴らしい伽藍が建立できたと自負しております。これも、皆様のご協力と、工事に携わって頂いた多くの方々の熱意の賜だと思います。この紙面を借りてお礼申し上げます。

さて、先ほど未だ完成ではありませんとお伝えしたのは、また新たに「慈嶽堂」というお堂を建立することとなり、本体工事が終わるか否かというタイミングで埋蔵文化財調査に始まり、設計作業を進めております。来年五月か六月頃を完成予定としておりますが、詳細につきましては現在煮詰めている段階でございますので、今暫くお待ち下さい。



■薬師如来像

（伊藤憲太郎氏作）

病氣平癒などを祈願して、仏殿にお祀りしています

■伽藍の全景

左側大屋根が庫院、中央二段屋根が仏殿、右側大屋根が方丈、仏殿の奥が観音堂、右側手前の土が見えている所が「慈嶽堂」建立予定地

撮影：08/06/25



■伽藍正面

屋根の重量感・伸びやかさが印象的な伽藍



■中池越しに望む仏殿

水鏡に写り込む仏殿



■山号額

従来は本堂に飾っていた山号額ですが、新たに山門に飾られるようになりました。



【薬師如来】
この世門における衆生の疾病を治癒して寿命を延べ、災禍を消去し、衣食などを満足せしめ、かつ仏行を行じては無上菩提の妙果を証らしめんと誓い仏と成ったと説かれる。
真光寺の薬師如来像は、立像で、右手を施無畏（せむい）印、左手を与願印とし、左手に薬壺（やくこ）を持っておられます。

◇伽藍建立工事のあゆみ



③庫裡の軸組 07/07/05



②観音堂の瓦葺き 07/06/02



①観音堂の野地板貼り 07/05/15



⑥仏殿の軸組 07/12/15



⑤方丈瓦葺きと仏殿足場 07/12/08



④方丈の軸組 07/07/29



⑨仏殿の装階（もこし） 08/02/04



⑧上棟式 08/01/06



⑦庫院の軸組 07/12/24



⑫山門 08/04/21



⑪廻廊 08/04/02



⑩庫院瓦葺き 08/02/20



■集成材の丸柱

丸柱も例外ではありません。集成材として成型されたものを円柱状に加工してあります。



■集成材の端部

茶色く垂れているのが接着剤です。

◇集成材
この伽藍建築最大のトピックスは「集成材」を使用した寺院建築だと言うことだと思います。
近年、大断面集成材が学校建築物などの大型公共施設の梁などに用いられるようになってきましたが、日本伝統建築である寺院には初めて使用されたと聞きます。木目を芯から等距離の物同士で合わせ、反り・歪みを打ち消し合っている様子が見えます。これから百年、二百年と経過し、日本最古の集成材建築となることと思います。

◇宮大工さんインタビュー◇

秋田県「社寺建築 伊棟」 伊藤棟梁

寺報第六号、七号と二回に渡り宮大工さんのインタビューの模様をお伝えしましたが・・・棟梁不在中の！インタビューでした・・・という訳で今回は棟梁の独占インタビューです！（ファックスにて）

☆宮大工になったきっかけは何ですか？

最初は木造住宅の木工へ弟子入りしたのですが、当時は住宅ブームで、細工して建てるというよりも釘と金物で接合する工法でしたし、ほとんどの住宅は築二十〜四十年程で建て直しするような工法でした。木工の仕事に対して矛盾を感じていた頃、秋田県仙北市（旧角館町）武家屋敷の営繕の仕事が言われ、その仕事に就いて現在ののような技術を憶えることができたんです。

☆集成材を使用した寺院は国内初めてですが、集成材ならではの難点、利点ほどのようなところでしたか？

難点は細工の段階で非常に接着剤が固く、刃物が切れなくなることでした。利点は丸柱等でも成型する事が無いところでした。集成材ですの木材のねじれ等はほとんど無いのですが、腐食等耐久性という点ではあまり解らない部分があります。

☆今後でも集成材を使用した寺院をどんどん作っていききたいと思いませんか？

できれば無垢材で寺院を建てたいと思いますが、寺院建築となりますと大量の木材が必要となります。最近問題となつていますが、木材の乱伐等の事を考えると集成材のニーズが増えると思います。現在、秋田杉も山の管理者が少ないためにだいたい山が荒廃していると聞きます。需要と供給のバランスが良ければと思うのですが、木材の供給を海外に依存してきたつてが廻ってきたのでしょうか。

☆一般の木工と宮木工の技術の違いはどんなところですか？

細工という点では大差はないと思うのですが、一般木工と宮木工の大きな違いという点では、一般の木工さんは現在の住宅事情からしてコストダウンに勤めるために、一日の仕事ノルマが重要となつてきます。そのため短くなった木材を手間をかけて使うという事はありません。そのため一軒の家を建てる場合、廃材を大量に出します。宮木工というのは、組物等

小さな木材を切り廻して使えるところがあり、廃材をなるべく出さないように勤めます。そのためには工期が重要となるわけです。工期が無い分廃材を出してノルマを上げる事となるわけです。宮木工はやればやるほど木材の貴重さが分かってきます。

☆真光寺を訪れる人にどこを見てもらいたいと思いますか？

真光寺全体を見て頂きたいです。建物が百年〜二百年と経つていて、真光寺という風景となり景色となるようにと願っています。

☆棟梁の一番好きな建築物は何ですか？

一番好きな建物というのは特にありませんが、例えば千年も経っている法隆寺等、先人が汗して苦労して建てた建物は皆好きですし、ずっと残って欲しいと思います。

☆「宮木工をやっていて良かった！」と思う時はどんな時ですか？

私共もだいたい社寺仏閣を手がけましたが工事中は無我夢中です。工事が終了して足場が解体され建物全体が見えたとき、自然と涙が出る事が何度かありました。大変な工事ほど感動がありますし、心に残ります。そんな時は木工で良かったなと思います。

☆約一年間、千葉に滞在しながらお仕事をなさっていました。千葉の印象や休日の過ごし方を教えてください。

千葉県の仕事は初めてでしたので、殺伐とした都会のイメージをしていました。休日はまず朝から洗濯です。洗濯機が一台でしたから十人も泊まつているときは大変でした。女房の大変さが分かります。養老温泉にも行きましたし、笠森観音も見に行きましたけど近くのパチンコ屋さんにも行きましたよ。〇

☆今、一番「幸せだなあ」と感じる時はどんな時ですか？

自分の家族と娘夫婦と食事する時かな。自分の親がそうだったように、子供はいくつになつても可愛いですよ。〇



伊藤棟梁

ちよいと裏話

今回の伽藍建築では集成材を使用するため、一度仕事の依頼を断つたそうですが、これからの時代に集成材の使用は避けて通れない面があることや、新しいことにチャレンジしていこう、という意志と共に改めて仕事を引き受けたそうです。男気のあふれるとても気さくな棟梁です！

◆ 里山葬墓苑（縁の会） ◆

◇ 境内地及び周辺地域で観察できる野草

里山葬の管理（草刈り）をすることにより、外来樹種の拡大を防ぎ、色とりどりの野草を目にする機会が増えてきました。園芸種の様な華やかさはありませんが、風景に溶け込む佇まいは心を和やかにしてくれます。

「道の辺の 尾花が下の 思ひ草 今更々に 何か思はむ」

作者不詳 万葉集より

この「思い草」とはナンバンギセルのことだと言われています。草陰にひっそりと咲く花に重ねて、人に知られず思い悩む心の情景が浮かぶ歌です。



■ネジバナ（ラン科）

森の苑に咲く野草。通常桃紅色の花を付けるが、珍しく白色の花を咲かせました。



■ヤマユリ（ユリ科）

境内地、周辺の谷地に咲きます。

夏

アキノタムラソウ
ウツボグサ
ホタルブクロ
ヤマホトギス
ヤブカンゾウ
ヤマユリ 等

秋

ウメバチソウ
オミナエシ
オモダカ
キツリフネ
ゲンノショウコ
タコノアシ
ツリガネニンジン
ツリブネソウ
ナンバンギセル
ヒガンバナ
ホトギス
メハジキ
ワレモコウ 等

◇ お盆・先祖供養のお知らせ（縁の会）

お盆の先祖供養を執り行いますので、ご希望の方は、お電話かFAXにてお申し込みください。

●卒塔婆供養について

卒塔婆供養とは、30 cm程度の長さの塔婆で、回向をした後に観音堂にて一ヶ月間お祀りされ、お戒名での供養、先祖代々の供養をすることが出来ます。卒塔婆供養は、常時お申し込みを承っておりますので、左記の要領でお申し込みください。（ご命日等）

- ① お施主様のお名前
- ② ご供養をする仏様の戒名か俗名・先祖代々・諸念の精霊等
- ③ ご供養する日
- ④ 卒塔婆供養のお布施（一体 貳千円程度）

●施食供養について

八月七日（木）の「七日法要」の後、午後一時より「大施食会」を行います。先祖代々の供養、戒名での供養をおこなう事ができますので、ご希望の方は左記の要領でお申し込みください。

参加できない場合でも、読み込み供養、卒塔婆供養が出来ますので、その旨ご連絡の上、左記の要領でお申し込みください。

- ① お施主様のお名前
- ② 卒塔婆供養の有無
- ③ 読み込み供養の有無（有の方は戒名か俗名、あるいは先祖代々かをご連絡ください）
- ④ ご回向のお布施（任意ですが、五千円～壹万円程度）
- ⑤ 卒塔婆供養のお布施（一体 貳千円程度）

※盗掘された野草が商品として売られている場合があります。ご購入の際にはお気を付け下さい。

里山再生活動

「かずさ自然学校」のお米作りも五年目に突入し、耕作面積は八反と昨年よりも半畝増えました。無化学肥料にチャレンジということで、昨年十月に蒔いたレンゲの種も無事に花開き（レンゲの根のこぶは多量の窒素を保持しています）、田んぼはしばしピンク色に染まっていました（ところどころにしか咲かなかった田んぼもありましたが・・・）。ひとまずは上田さんも安心していたようですが、レンゲの窒素肥料の効果は未知の世界ですので、まだまだ気は許せない様子です。そして恒例のイベントも行われました。普段はひっそりとしている田んぼですが、イベントの時はとても賑やか！そんな様子をご覧ください。

3月 カイコン



1. 斜面を覆っている笹を刈って陽当たり、風通しをよくします。
2. 収穫したタケノコは湯がいて夕食でいただきました
3. 田んぼの水たまりに産み落とされていたアカガエルの卵を安全な水路に移動
4. 水路に住んでいるクチボソ(コイ科)
5. 同じく水路に住んでいるヨシノボリ(ハゼ科)

4月 クロヌリ



1



フキの花



2

1. 隣の田んぼで昔からお米を作っている上のおじさんが畔塗りの技を伝授してくれました ^-^
2. 畔に泥を塗りつけて田んぼの水漏れを防ぎます

5月 タウエ



1. 田んぼ一面に咲いたレンゲの花
2. 横に張った紐に沿って稲を植えていきます
3. 田植機体験
4. 夕食では地元の方に千葉の郷土料理の太巻きずしを教えてくださいました
5. 椿の太巻きずしができた！

お・ま・け



クサトリ 6月



1



2

1. 田んぼと花菖蒲
2. お寺の畑でジャガイモ掘り

3. 田の草取り
4. 草取り終了！でパチリ



3



4

六月の「草取り」のイベントは、かずさ自然学校始まって以来の大人数の参加者を記録しました。その数なんと三十六名！下は小学校入学前のお子さんから、上は七十歳代の方まで。こうしていろいろな世代や職業の方と接することができると、こういった活動の魅力であると思います。又、二十代・三十代の都市で働く方の参加も一段と増えており、改めて「自然」や「食」といった生きるうえでの根本的な事象に人々の関心が強くなってきたのだからと感じます。まずは体験が第一歩です。皆さんの参加をお待ちしています！

◇活動予定◇

「お米作り」

「稲刈り」

日時 九月十三日（土）・十四日（日）

内容 稲刈り

特典 参加回数当たり二キログラムの新米を差し上げます

締切 参加申込みは九月八日（月）とさせていただきます

「収穫祭」

日時 十月十八日（土）・十九日（日）

内容 栗拾い、餅つき、レンゲの種まきなど

特典 新米を進呈します！（今年の活動参加回数×二キログラム）

締切 参加申込みは十月十三日（月）とさせていただきます

集合場所・時間 真光寺・一〇時

*電車での参加の方には送迎を致します。

（要申込み・内房線姉ヶ崎駅改札口

午前九時三〇分集合）

費用 一泊二日 六千円（保険代・食費含む）

服装 動きやすく、汚れても良い服装

申込み方法 satoyama@shinko-ji.jp

又は

FAX 0438-75-7630 までお申込み

下さい

「新」里山体験

今年から山の手入れの体験もプログラムに組み込むことになりました。

「山の手入れって何？」

「山の手入れをするとなんが変わるの？」

「それは田んぼにも影響すること？」

などなど、森林が持つっている働き、循環などを体験を通して体で感じられるプログラムです。

山と海は繋がっています。実際に、漁師さんが海を豊かにするために、山に木を植えて豊かな森をつくる活動も全国津々浦々で行われています。かずさ自然学校でのプログラムでは、植林ではなく荒れている山の木の伐採や下草刈りをします。木の伐採も森を豊かにするためのひとつの方法です。春から秋は田んぼで、冬は山で汗を流しましょう！

日時 十一月二十二日（土）

十二月 二十日（土）

一月 一七日（土）

二月二十一日（土）

内容 木の伐採 下草刈り 竹刈り（場所によって内容は変わります）

※二月は伐採した木を使ってクラフト

時間 十時～四時

締切 各期日の一週間前

費用 二千～三千円

集合場所・服装・申し込み方法は上記と同様

◇ お坊さんのお米作り ◇

真光寺がお米作りをしている田んぼは全部で十八枚あります。そのうちの一枚では昨年から千葉県曹洞宗青年会のお坊さんたちがお米作りに励んでいます。人数は約二十名、年齢は二十五歳から三十九歳まで。その中でも、実家や親戚の田んぼの手伝いに行っているので「田んぼ仕事は慣れているよ!」というお坊さんは一名のみ。その他のほとんどのお坊さんは、田んぼに入るのは初めてだそうです。今回は青年会会長を務めている新野利行さんに原稿を寄せていただきました。

千葉県曹洞宗青年会は昭和四十三年に発足。現在、会員数は約百名。県内の曹洞宗寺院に籍を置く青年僧侶の相互研鑽と親睦、及び菩薩行の実践を通じて社会に貢献することを目的とし、各種研修会や法要、托鉢を通しての募金活動、参禅会などを行っています。

真光寺さまのご住職も、かつて当会の会長をお務めになり、活動の活性化や会員の意識向上にご尽力下さいました。こうしたご縁もあり、現在当会では真光寺さまご協力の下、稲作体験に取り組んでいます。

日常的な主食として、普段何気なく口にしているお米。また、お寺では檀家さまからお供えとして頂戴する機会も多いお米ですが、我々の世代は田畑を耕した経験がほとんど無く、私自身、お米が出来るまでの過程、その手間や苦労について何も知りませんでした。この稲作体験は、お米作りの大変さを自分たちで体験することを通じて、自然の恵みやお米をいただくことの有り難さを再認識するとともに、植物の成長や自然環境の変化に目を向ける意識を持つとう、という思いのもと企画したものです。

昨年は台風による作業の中止などもあり、結果的に自分たちで行った作業は田植えと稲刈りのみとなりましたが、収穫祭でお腹いっぱい食べた「自分たちで植えて刈り取った」お米の味は格別でした。また、我々が携わった田んぼで収穫したお米約二〇〇キロは、木更津市にある児童養護施設「野の花の家」様に寄贈させていただきました。

二年目となる今年は、より多くの作業を自分たちで行うことを目標に、春先から種まきやくろ塗りをを行い、五月末には田植えを済ませました。今後も田の草取りや畔の草刈りなどを行っていく予定です。

最後になりましたが、田んぼをはじめ、苗や収穫したお米の全てを無償でご提供下さり、毎日の水の管理など様々な形でご支援をいただいている真光寺関係者の皆さまに、心より御礼申し上げます。



1. 昨年の稲刈りの様子。台風で稲が倒れています。
2. 「はい、チーズ!」ならぬ、「はい、合掌!」

3. 今年は檀家さん（高吉俊雄さん）に種まき機をお借りし、苗を育てるところから始めました。ありがとうございました。
4. 田植え。気持ちよさそう!
5. 草取り

行事報告

〔檀信徒〕

◆春季彼岸会法要◆



法要の様子



落語の様子



梅花請員のみなさま

三月二十三日、春季彼岸会法要が行われました。春分の日と秋分の日を中日としてそれぞれ前後の七日間を彼岸といいます。彼岸とは煩惱を脱した悟りの境地のことで、迷いや苦しみの無い清らかな世界です。それに対して迷いや苦しみに満ちたこの世を「此岸」と呼びます。彼岸という言葉はサンスクリット語（昔のインドの言葉）の「パーラミター（波羅蜜多）」からきていて、漢訳すると「到彼岸」になります。彼岸の間は心静かに自分を見つめ、また亡きご先祖様に感謝し供養します。

そして、真光寺でお彼岸といえ、恒例の落語です。落語家は三遊亭時松さん。この日のお題目は「牛ほめ」と「試し酒」。しばしの間、笑いにあふれた本堂になりました。

◆花祭りの法要・檀信徒総会◆

四月十三日、花祭りの法要及び檀信徒総会が行われました。花祭りはお釈迦様の誕生日（二千五百年程前の四月八日）をお祝いする行事です。竜王が産湯として甘露の雨を降らせたという伝説に因み、天地を指したお釈迦様の誕生の姿に甘茶をかけて、梅花流詠讃歌（鈴鉦を用いて唱える仏讃歌）と共に祝いしました。

〔縁の会会員〕

◆七日法要◆

◇「植樹祭・花祭り法要」 ◇ 四月六日（日）

晴天に恵まれたなか、里山葬墓苑にて会員の方々と共にサカキやヒメシヤラ、コムラサキなど計四十六本を植樹いたしました。こうして少しずつではありますが、真光寺の里山葬墓苑は緑に覆われた山に近づいていきます。

◇「田植え祭り」 ◇ 五月七日（水）

午前の法要・授戒式の後、午後に田植えの予定でしたが、希望される会員の方がいらつしやらなかったため昼食後解散となりました。強制ではありませんので・・・こういう流れも出てきます。

◇「中元祭り」 ◇ 六月七日（土）

午後は会員の皆さんと一緒に収穫した梅で梅酒を作りました様々なタイプの梅酒ができるだろうと思います。そして書院にて里山葬墓苑を眺めながら、お茶をいただきました。



道元禅師「学道用心集」に学ぶ

真光寺住職

岡本 和幸

永平寺を開かれた道元禅師は、膨大な書物を書き残しています。その中に「学道用心集」という書物があります。これは、仏の道を学ぼうとする者の心得のような書物であり、道元禅師の宗教が如実に現れている書物でもあります。

学道は学びの道と書きます。人はなぜ学ばなければならぬのでしょうか。人として生まれ、いずれ死なねばならぬ以上、少しでも充実した有意義な楽しい人生を送りたいと願うのは当然の事でしょう。学びの道はすべて、人間としての充足した日送りのための道といえます。「学道用心集」はその心がけを説かれた物です。

前号に引き続き、「学道用心集」の中の道元禅師の言葉をひきながら、私達の生活に生かしたお話をいたしましょう。

最近気になること

最近とても気になっていることがあります。

「他人の迷惑にならないのなら、なにをしてもいいじゃないか」という考え方が社会にはびこっていることです。テレビの娯楽番組で、若い夫婦たちが決まり文句のように「誰にも迷惑をかけていない」と繰り返し返すたびに、この言葉が想像以上に社会に蔓延まんえんしているように感じます。戦後の教育は自由を至上のものとし、他人に迷惑をかけな

れば何をしてもいいという考え方の上に成り立ってきたように思いますが、このきて多くの人が自由ということの本来の意味を理解できず、自縄自縛に陥って苦しんでいるようです。薬物中毒が若い人々の間で蔓延しているといえます。薬物は法律によって禁止されていますが、自分の欲望を満足させることを至上と考える若い人たちは、薬物を使用しても何ら悪いことはないと考えているようです。ある調査によると、高校生の実に六割が、他人に迷惑をかけなければ薬物をやってもよい」と答えたといえます。一方、中高年の間では自殺者が急増しています。厚生省「人口動態統計」によると、二〇〇七年間の一年間に三万七千七百七十七人が自殺しています。電車は投身自殺をする人によってたびたびダイヤが乱れ、迷惑を蒙こうむった方も多いことと思います。先日テレビのニュースで自殺したがる人々という特集が組まれ、どうしようもなく死にたくなる人々や、他人事のよう

道徳と宗教

しかし、「他人に迷惑をかけなければなにをやってもいい」とか、「自分の命を絶つのは本人の自由だ」という考え方は、やはりどこか間違っているのではないかと私には思えてなりません。「自由」とは「自らに由る」という字の通り、全

ての事柄を自分の責任において判断し、自分を取りまく状況を見極めながら行動するというのが本来の意味で、実は非常に厳しい立場なのです。しかし、「自由」であることが「わがまま」であることとはき違えられているのが現在の社会です。たとえば、雑誌やテレビなどでは「私らしく」とか「自分に素直に」という言葉がよく見られますが、しかし往々にしてそれは「自分に素直」ではなく、「自分の欲望に素直」なだけの、単なるわがままもしくは甘えであり、欲望に素直でありたいがために、周りの人々や状況が見えなくなってしまうという危険をはらんでいるのです。この世の中に、人に迷惑をかけない生き方などあるのでしょうか。そんな生き方はできないからこそ、自らの身の処し方を常に考え、感謝の心を忘れずに生きていこう。これが宗教的な生き方の柱です。それに対して、人に迷惑をかけるなどというのは上手な世渡りをしていくための道徳に過ぎません。心に柱のない道徳は、場合によっては際限ない欲望を助長して命取りになることもあるのです。さて、皆様はどのような自分の心の柱をお持ちでしょうか。言い方を変えれば、どのような信念を基に生きておられるでしょうか。

縁に生かされて

「人の命は他に依らず、自に依らず、縁による」というのはお釈迦さまの言葉です。命は神があたえたものではない、自分が作ったものでもない、さまざまな助けと、よい環境によって作られ育まれたものであるという意味です。私たちは生まれてから今までの間に、計り知れない人間や動物や自然の恩恵を受けて、まさにさまざまな「おかげさま」の中で生きていくのです。これが仏教徒の心の柱だと思います。仏教ではこの世は無常であるといえます。無常とは、常ならざる真理という意味で、人とは常ならざる中で、さまざまな縁に生かされている存在だということです。縁に生かされているからこそ、命尽きるときまでその縁に報い、また縁という生きる力を観じて勇躍して生きていく。これが仏教徒の生き方、さらにいえば人の人たる生き方といえないでしょうか。皮肉なことに、多くの生物の中で唯一、死ということについて考えをめぐらすことができるようになった人間だけが、この命を自分のものであるかのように錯覚して、欲望にまかせ、自らの命を絶つてしまいます。「私の命」と思うのは、まさに人間の傲慢（まうごう）です。犬や猫などの動物たちは、決して自殺をしません。末期のその時まで立ち上がろうとし、食べようとしています。また、私たち自身の細胞も、一秒でも長く生きながらえようとしています。しかし人は自らの命を絶つ道具を持ち、また自らの選択によって自らの命を絶つことができるがゆえに、欲望に負けて、あるいは生かされている命の真理を顧みずに、愚かな行為に走ってしまう。人の迷いの最たるものでしょう。仏教は、そのよう

な迷いから抜け出るための宗教です。もっとわかりやすく言えば、欲望に振り回され苦しむことのないように心を静かに保つ宗教です。

二見にわたって一を見る

道元禪師は『学道用心集』の中で、「初め門に入る時、知識の教えを聞いて教えの如く修行す。その時に知るべき事あり（はじめて仏道の門に入るときには、師の教えに従って修行するのであるが、そのときに知るべきことがある）」として、次のようにお示しです。

いわゆる法、我を転ずると、我、法を転ずるとなり。我能く法を転ずる時、我は強く法は弱し。法還つて我を転ずる時、法は強く我は弱し。仏法從來この両説あり、（以下略。『学道用心集』七）

真理が私を突き動かしているときは、私は弱く真理が強く働いている。私が強くなると真理が隠れてしまう。常にこの両方から物事を考えていかないと、本質は見えてはこないという意味です。それについて道元禪師の『正法眼蔵』には、次のような説明があります。

諸仏諸祖の行事によりてわれらがが行持見成し、われらが大道通達するなり。われらが行持によりて、諸仏の行持見成し、諸仏の大道通達するなり。

（「行持」の巻）

つまり諸仏がいたから今日我々はその行いにならう事ができ、諸仏の行いを私たちが実践するかからこそ、過去の諸仏の行いが生きてきて、諸仏が

輝くのだ。この二つの見方は同時にあって、どちらも真理であるということです。これは私たちの命の伝承をよくあらわした言葉だと思います。過去と現在と未来が同時に関わり合って、初めて私の命があり、人生があり、「今」という時を刻みつけるのだということです。私という存在は、自らの欲望に突き動かされる一方で、さまざまな縁によって生かされています。この二つの方向性から自身の命を見つめることが必要なのです。死にたいという自己の欲望の面と、生きようとしている自分の体、そして生きていて欲しいと願う人々がいるという真理。人に迷惑をかけたくないという欲望と、迷惑をかけなければ生きていけないという真理。その真理と欲望の両面から、常に自らのあり方を見つめ、事の善悪、正否を判断していくことが、よりよい生き方を見つけていくカギとなるのであると、道元禪師はお示しなのです。



■お釈迦様（旧ご本尊様）

江戸時代後期の作といわれています。

行事予定

〔檀信徒〕

◇大門大施食会法要

平成二十年八月九日（土）午後一時説教 午後二時法要

説教師 明林寺住職 西田 正法 老師

恒例の大施食法要を行います。お気軽にご参加下さい。なお卒塔婆の申し込みは地区役員またはお電話にてお願い致します。

●卒塔婆の申し込み方法（左記の情報を伝えて下さい）

○おまつりする方 先祖又はお戒名（俗名でも大丈夫です）

○お施主様の名前 お塔婆をあげる方の名前

☆塔婆供養布施は一本 二千五百円程度 となっております。

●本年は山の上の駐車場が僧侶専用となりますので、お車は川島家横の大駐車場に駐車して下さい。尚、下の駐車場から上の新しい伽藍までワゴン車でピストン輸送を致します。

◇秋季彼岸会法要

平成二十年九月二十一日（日）午後二時より

左記の要領で恒例の秋季彼岸法要を行います。山の上の駐車場が使えますので、上がって下さい。尚、徒歩でお越しの方は坂の下から上田がワゴン車で送迎します。法要終わって落語の予定。

◇婦人会ご詠歌練習日

八月十二日（火）・二十六日（火）

十月十四日（火）・二十八日（火）

十二月 九日（火）：忘年会

※各回、午後八時より、十月からは午後七時半より真光寺書院にて行います。（どなたでも飛び込みで参加できます）

◇お寺掃除

八月三日（日）表場上 根澄山 台

〔縁の会会員〕

◇七日法要 季節の行事予定

「お盆法要」 平成二十年八月七日（木）

【午前】授戒式・八月月供養 【午後】お盆法要・新盆施食法要

「彼岸供養・稲刈り」 平成二十年九月七日（日）

【午前】授戒式・九月月供養 【午後】稲刈りと里山散策

「収穫祭」 平成二十年十月五日（日）

【午前】授戒式・十月月供養 【正午より】収穫祭

「植樹祭」 平成二十年十一月八日（土）

【午前】授戒式・十一月月供養 【午後】植樹祭

「懺悔会」 平成二十年十二月七日（日）

【午前】授戒式・十二月月供養 【午後】大掃除

＊昼食準備の都合上ご出席いただく場合は必ずお電話又はメールにてご予約ください。午後のみの参加もできます。

＊電車での参加の方には送迎を致します。

（要申込み・内房線姉ヶ崎駅改札口 午前一〇時集合）

申込み先 TEL 0438-75-7365 ennokai@shinko-ji.jp

＊お盆・先祖供養のお知らせの詳細は五ページに記載があります。



お寺ブログ

【瓦谷山だより】

<http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

写真：境内に自生しているウラシマソウ

次号の寺報は十二月の発行になります